

令和5年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
東水沢保育園

I. 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することができる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども

II. 施設運営の重点課題

- 地域のニーズに合わせた保育事業の展開
- 特色ある保育の実践
- 保護者支援
- 情報発信をし地域との連携を図る
- 専門機関との連携を図る
- 「食を営む力」を育む
- 自己評価における学び合い
- 「たくましい子を生み育てる」保育の実践と研究

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

III. 評価項目と取り組み状況

自己評価項目		評価	取り組み状況
1	地域のニーズに合わせた保育事業の展開 ・保育の充実に努める ・市内最長の延長保育 ・子育て支援拠点事業の実施	B	・園内で構成された「環境」チーム研修とともに、安全に配慮し過ごせるよう園舎内外の危険箇所マニュアルの作成を行った。加筆をしながら今後も活用し、安全対策に努め保育活動を進める。 ・市内最長の延長保育では、地域ニーズに対応してきたが、利用の減少により時間短縮の検討をした。 ・子育て支援拠点事業では、コロナウイルスが5類になり、イベント開催の要望に応え利用者が増えた。地域ニーズに応える子育て支援センターとしての役割を果たした。
2	特色ある保育として、自然体験や社会体験目的の園外保育、日本文化に触れる和太鼓の取り組み等を通して豊かな心の成長を育む。	A	・バスで園外保育に出かけ、自然に直接触れる体験を通し、仲間と共有しながら発見したり遊びを広げたりし、自然と関わる力を深め、豊かな心の成長につなげていった。公共の施設を利用することでルールを守り、関わる人たちの仕事を知り社会性を身に

			<p>つけていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓に触れ、リズムを合わせる心地良さを感じ仲間との協調性を身につけた。
3	<p>保護者の個別面談、保育参加、子育て講演会を行い、園と家庭との相互理解を通して保護者支援を行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談（前期・後期の2回）、保育参加、子育て講演会を行い、園と家庭との相互理解に努めた。 ・必要に応じて随時、面談や保護者対応を行い、子育て不安や、育児・家庭状況等についてお伺いし、把握に努め配慮を心掛けた。
4	<p>情報発信しながら家庭や地域、様々な社会資源との連携に努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や子育て支援拠点事業「風の子だより」の地域への回覧、信用金庫へ行事の様子の貼りだし等、園の情報を知っていただいた。 ・地域の方々（読み聞かせ会、味噌作り、キッズ英語、お茶のお稽古、駒形野球倶楽部）と連携し交流を図りながら保育活動ができた。
5	<p>地域のネットワークを生かし、行政機関、専門機関との連携を図り、対応の強化に繋げる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の障がいの種類、発達過程に応じた気になる子のケース検討をし、専門機関と連携を図り、指導を受けながら実践に活かすことができた。
6	<p>「食を営む力」を育むため、家庭、地域との連携を深め（地産地消・風の子農園の活用）子どもの健やかな心身の成長発達を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風の子農園の野菜を生かし料理を作る等保育との連動を持つ。 ・食を通して家庭、地域社会との関わりを深め、子どもの心と身体の育成を促す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「食を営む力」の育成に向け、食育計画を基に提供していき、保護者に食に対する正しい知識（バランス、食べることの大切さ、栄養の情報）を便りで発信していった。 ・地域と連携しながら、地産地消を取り入れ連携を深めた。 ・風の子農園を活用し野菜の生長や収穫の喜びを持たせ、野菜を使った調理を行い食への興味関心を高めた。
7	<p>自己評価を通して実践から気づきを共有し、学び合い専門性の向上を目指す。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価ガイドライン」に基づき、保育計画と保育日誌の記録や、年齢別会議、日々の振り返りを通して保育者同士話し合い、子どもの育ちや課題を知っていき、実践に生かしていき学びあった。 ・全国保育士会「人権擁護のセルフチェックリスト」を活用し、ワークショップ形式で話し合い、保育の振り返りを行った。
8	<p>「たくましい子を生み育てる保育の実践と研究」を進める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会、部会チーム研修、園内研修、キャリアアップ研修、ICTを活用した研修へ参加し資質向上に努めた。